



6年生38人が自動車のリサイクル工程を見学し、資源循環などについて学んだ  
＝酒田市・永田プロダクツ

# 資源循環の大切さ 工場を見学し学ぶ

米沢の児童

酒田

米沢市万世小  
（後藤満男校長）

の6年生38人が15日、酒田市内で社会科見学を繰り広げ、再生可能エネルギーやリサイクルについて理解を深めた。

14日から1泊2日の日程で、庄内地方を訪れた修学旅行の一環。この日は酒田港周辺の風力発電、バイオマス発電などの再エネ施設を巡ったほか、同市高砂の自動車リサイクル業・永田プロダクツ（永田則男社長）

本社工場を訪問した。

児童は同社で、ガソリン、エアバッグの回収といった解体作業の安全を図るための工程や、ドア、エンジンなどの再利用部品を点検する様子を見学した。引き続き、アルミや銅などを分別して取り出した車体を、プレス機で圧縮する作業のライブ映像を観賞。重機を巧みに操る職人技を目の当たりにし、興味津々といった様子だった。

様子だった。

永田社長は児童に「自動車は、部品や材料の99%をリサイクルできる。資源循環の大切さを学びきっかけになればうれしい」と呼び掛けた。舟山楓夏さん（12）は「車を解体する音が大きくてびっくりした。リサイクルのために、いろいろな機械を使って頑張っていることが分かった」と話していた。（吉村瑛人）